

—巻頭言—

## 明治大学図書館が抱える課題

南保 勝美\*

明治大学図書館の現状と課題については、林義勝館長および山泉進館長時代に、本誌 20 号の巻頭言および 22 号の巻頭言で詳細に述べられている。図書館リテラシー教育の充実、電子ジャーナルの高騰に対する対応策、図書館図書費の削減（2013 年度およそ 7 億 3000 万円の決算額であったが 2018 年度はおよそ 6 億 2000 万円の予算額となっている）に対する増額要請のための手立て、学術情報のオープンアクセス化、特色のある資料を含めた収書とその活用等々、そこでは、山積した本学図書館の課題が示されている。定年により退職された吉田悦志前館長の後を引き継ぎ、2019 年 4 月より館長を務めているが、これらの課題への対応・解決は、簡単ではない。ここでは、その後の状況についての報告と本誌 20 号・22 号で取り上げられてこなかった本学図書館が抱えている問題の一端について触れることにしたい。

学術研究のオープンアクセス化の第一歩となる「明治大学オープンアクセス方針」が制定され、2019 年 12 月 5 日に施行されることとなった。歴代の館長・副館長・図書委員・図書館職員が検討を重ねてきた努力と大学関係諸機関から理解をいただいた結果である。明治大学学術成果リポジトリは、本学に在籍する教職員の研究成果を、明治大学学術成果リポジトリ

---

\* なんば・かつみ／明治大学図書館長 法学部教授

によって公開するものである。今後は、これを受けて、機関リポジトリへの収載・管理・運用を通じて、本学図書館がオープンアクセスの推進を図っていくことになる。

ところで、図書館の機能として、収書した書籍の管理・運用は基本的な役割として位置づけられるが、喫緊の課題としてスペースの狭隘化があげられる。4 キャンパスの図書館の収蔵スペースが限界に達しつつある。中央図書館では、2018 年度現在およそ 123 万 6000 冊の蔵書、およそ 1 万 5000 タイトル（なお、以下の数値も概数として表示している）の紙媒体の雑誌があり、書架収容可能冊数（棚板 90cm で 25 冊の計算）99 万冊を大きく超えている。毎年、1 万冊ほどを受け入れていることに鑑みると、きわめて厳しい状況にある。図書館利用者の安全性・使い安さ・図書館としての機能を考慮すると、単に書架を増設すればよいという話ではない。また、電子ジャーナルや電子ブックに切り替えればすむということでもない。和泉図書館では、37 万 9000 冊の蔵書、2700 タイトルの紙媒体の雑誌、書架収容可能冊数 58 万冊、生田図書館では、46 万冊の蔵書、7900 タイトルの紙媒体の雑誌、収容可能冊数 54 万冊、中野図書館では、4 万 3000 冊の蔵書、8200 タイトルの紙媒体の雑誌、収容可能冊数 5 万 1000 冊、生田保存庫では、43 万冊の蔵書、9400 タイトルの紙媒体の雑誌、収容可能冊数 55 万 3000 冊という数値となっている。年単位の受入図書は和泉図書館では、1 万冊、生田図書館では 5000 冊、中野図書館では 3800 冊となっている。数値のうえでは、中央図書館のほか、中野図書館は収蔵スペースが限界に達している。置ききれない蔵書は、生田保存庫に収蔵するような措置を取らざるをえない状況である。各キャンパスの図書館の書架の状況を見ると、収蔵図書のほか、寄贈を受けた図書や資料などもあり、生田保存庫を含め、いずれもスペース不足が深刻になっている。各キャンパス図書館の努力によって何とか配架しているのが現実である。このための改善策として、適当な大学の既存施設を探すだけでなく、民間の図書倉庫を賃借することも視野に入れて議論を重ねながら検討する必要がある。

中野図書館については、2013 年に中野キャンパスの誕生とともに開館したが、当初より閲覧スペースや書架スペースなどの狭隘が指摘され、抜本的な改善が要請されている。国際日本学部、総合数理学部および研究科を

擁する中野キャンパスでは、第2期整備計画により拡充を図っていくことが不可欠である。生田図書館は、1970年に明治大学図書館生田分館として開館し、その後、増改築がなされ、1988年に明治大学生田図書館と改称された。開館後50年を経過する生田図書館については、施設の老朽化も進み、生田キャンパスグランドデザイン専門部会において、教育棟と一体となった新生田図書館の建設計画が検討されている。理工学部・農学部・研究科という理系キャンパスであることを考慮した図書館の整備計画を推進していかなばならない。特色のある図書館づくりを構想する必要がある。

以上のほか、図書館が抱える課題として、図書館HPの改編や防災対応がある。大学全体のHPのリニューアルに対応して、図書館HPのリニューアルをどのように行うかが検討されている。入館することなく図書館を利用する学生・教職員の数は多数になっている。現在の図書館HPは、10年以上前に作成され公開されたものであり、利用者が使いやすいHPにすることが求められている。さらに、近年の気候変動や地震に対する防災策を、図書館利用者の安全を第一に確保するという観点から見直すことも求められている。